

指導教諭 K.M

2020年には日本国内の小学校で英語が必修となりますが、英語教育法の一つである「イマージョン教育」とは、一体どのようなものなのでしょうか。実はイマージョン教育の始まりは、カナダになります。フランス語を話す親たちが、学校で習う第二言語としてのフランス語では、子供達がフランス語を習得できないという理由で、1965年にイマージョン教育が始まりました。また、アメリカでは1970年代からスペイン語のイマージョン教育が始まり、以降、10以上の言語のイマージョン教育が実施されています。現在では、ヨーロッパやアフリカ、アジア各地で広がりを見せています。イマージョン教育には、まだまだ課題は残されています。日本の小学校で、取り入れた場合、高度な日本語の読み書きが中途半端になる可能性があります。確かに、学校から一步出れば日本語だけの生活ではありますが、会話としての日本語に不自由はなくても、高度な日本語の習得という、やはり学校の授業として覚えることが重要になってきます。意識して日本語を勉強しないと、正しい日本語で文章を書くという作業が、不得意になってしまうことがあります。その点、日本語運用能力がほぼ確立をする中学校、高校での実施はより効果的なものかもしれません。

この日は、S学園中・高等学校とM学院中・高等学校からそれぞれ2名の英語の先生方が視察に来校されました。S学園の英語主任のH先生は、私の前任高の教え子で、教育実習も担当させていただきました。以前にもまして、礼儀正しく、聡明になられていたH先生から届いた礼状の中で、

「先生がおっしゃっていたように、学内留学担当の各先生方はまさにプロフェッショナルでした。生徒たちが自然と前回までの復習ができるよう活動が組まれ、宿題で作らせてきたスピーチの発表を飽きないよう繰り返すことで宿題の確認にとどまらず、発表の練習にもなっていました。北野高校の生徒さんとはいえ、高校1年生が専門科目の講義にどれだけ対応できるのかと思っていましたが、一方的な講義ではなく、問いかけをたくさんすることで考えさせる時間を作り、interactionを上手く入れながら「講義」が進められていました。

前回までの復習・講義・プレゼン等を拝見しましたが、どれも講師の先生の工夫が随所に見られたうえに、積極的に発言する生徒さんが多く、「学内留学」を通じて、自信をつけていると思われる場面がたくさん見られました。」

先進国の中でも特に、英語が話せないと言われる日本人にとって、イマージョン教育はやはり魅力的です。問題視されている、母国語である日本語の習得レベルをあげつつ、更に、ネイティブスピーカーと並ぶ英語力を持つバイリンガルな日本人が、どんどん世界中で活躍する日がくることを願っています。



冬の北野メインストリート



教育学



ビジネス学



心理学



天文学



環境学担当

A講座 Education Course（教育学講座） by Mr.Peter Vande Veire

1年4組39番 Y.N

一限では、宿題として考えてきたスピーチをペアで発表しました。北野高校の授業の中から一コマ取り上げ、授業内容がどのインテリジェンス(得意とする能力、例えば計算、芸術、読解などです)を持つ生徒に適しているかについてのスピーチでしたが、ペアを変え三回ほど読み合い、暗唱できるよう努めました。

二限では4社のファストフード店のカロリー表を元に、昼食に一番良いメニューは何か考えました。4人のグループの中で役割を分担して4社を比較し、低カロリーで脂質の多すぎないセットメニューを考えました。

三限では、具体的に言うとコーポレートトレーニング、人と協力して新しい知識を得る学び方についての講義を受けました。教育学の分野の専門的な授業を理解し、ノートを取って復習できるようにする、という大学の講義のような授業でした。

四・五限では、グループで粘土を使って地球の大陸の変動を追いました。担当に分かれて、大陸の形に紙を切ったり、粘土を形作ったり、英文での質問に答えたりしました。最後に質問の答え合わせをしたり、各グループでどのような意見がでたのかクラスで発表したりしました。

学内留学も三回目ということもあり、授業を英語で聞くのにも慣れてきました。一限の初めにあるスピーチは、事前にやっていたのですが、うまく相手に伝えることができなくて、もどかしい思いのまま終わってしまいました。また今回の授業でのカロリーの計算や粘土を使っての大陸の移動の学習を通じて、こういう授業をすると、こんな能力を持つ生徒が学びやすい、という教育的な教えの基礎を身をもって知ることができました。英語にもっと触れて話せるようになりたいという思いで参加している学内留学ですが、単に英語を扱うだけでなく、選択した講座の専門的な知識も得られるので、とても有意義な五時間を過ごすことができとても嬉しいです。

B講座 Business Course (ビジネス学講座) by Mr. Lance Domotor

1年7組32番 M.H

(内容)

一時間目

製品の比較についてのプレゼンテーションの予定でしたが、指示されていた形式と異なってしまうため次回の授業に延期になりました

二時間目～四時間目

シリアルボックスにつけるおもちゃについてのプレゼンテーション

五時間目

ケーススタディ

(感想)

・授業を受ける姿勢

三回目の授業とあり、自分では学内留学に慣れてきたつもりでした。だから、一時間目にプレゼンテーションの形式が誤っているとわかったときはとてもショックでした。今回のことで不明な点や、不安が残る点は先生や友達に質問するという姿勢がとても大切だと感じました。

・プレゼンテーション

私はこの学内留学を通じて人前で話すことに少しずつ慣れ、以前より緊張しなくなったと感じています。学内留学では人前で話す機会が多くありますが、ビジネス講座を受けている人はみんなとても堂々としています。私も周りのみんなに影響され積極的に発表してみようと思うようになりました。今回のプレゼンテーションの際に先生がよくアイコンタクトが取れていると褒めてくださり、とても嬉しかったです。人前で堂々と話すことが求められる場面はこれから先たくさんあると思います。学内留学を通じそのスキルを身につけることができよかったですと感じました。

・ビジネス的な見方

今回の授業内ではシリアルボックスにつけるおもちゃについての発表がありました。私はどうすればシリアルボックスの売り上げが上がるのかしか考えることができませんでした。しかし環境への影響や、安全面まで考えている班もあり経済とはいろいろな要素で構成されているのだと感じることができました。普段は経験できない商品の企画を経験でき、将来の職業を考えるよい機会となりました。

C講座 Psychology Course (心理学講座) by Craig Boobyer

1年6組9番 O.H

今回の授業では、社会心理学について学びました。社会心理学とは、私たちの行動、考え方、感じ方が周りの人の影響でどのように変化するのかを学ぶ学問です。

1限目、宿題で作った短いプレゼンをグループ内で発表しました。人の心理を利用して、商品を良いイメージにしている広告を探しました。普段何気なく見ている広告も、人を惹きつけるためにたくさんの工夫がされていることが分かりました。

社会心理学は7つの項目に分けられます。それを2限目に教えていただきました。そのうちのひとつであるconformityを3限目で掘り下げました。Conformityとは、周りの人に適合するように自分の行動を変えることです。この内容に関する面白い実験のビデオをいくつか見ました。

4限目、conformityが日常でどんな所に現れるかということを考えました。友達と遊びに行くときや、海外に旅行に行くときなど、たくさんありました。これを知って私は、想像以上に自分の行動が周りの人に影響されていたのだなと思いました。

5限目、第1回、第2回で習ったことを軽く復習し、それらをふまえて次の発表の準備をしました。発表のテーマは、新しく自分たちで商品を作る、というものです。これまで学習してきた人の心理を上手に活用し、売れる商品を作ります。

今まで受けてきた学内留学の授業はとても高度で、英語がすべて理解できるという前提で話が進んでいきます。初めは少し戸惑っていましたが、だんだん慣れていき、最後には心理学の知識をたくさん身につけることができました。しかし、知ることとそれを知らな

い人に教えることは、難しさが全然違います。5限目に打ち合わせをしていて、そう感じました。

ただ教えるだけでなく、学んだことを生徒に発表させる機会もある学内留学は、これから社会に出て行くときに必要な力をつけることができる、いい講座だと思いました。

D講座 Astronomy Course (天文学講座) by Mr. Josh Glaser

1年7組6番 E.S

今回の天文学の講座では主に、グループでの英語による発表、先生からの講義といった形式だった。

まず、グループ発表では、隕石や彗星、過去や現在の探査機を用いたのミッションなどを各班で発表した。どの発表も、かなり専門的な内容であり、学内留学ならではだと感じた。しかし、内容が専門的であるがゆえに伝え方がとても大切だった。いかに簡単な英語で相手に伝えるかなどの「分かりやすく伝える工夫」が今回の発表では焦点になっていたと思う。また、班によって、パワーポイントを使う、発表しながら黒板に絵を描く、など、工夫の仕方が多彩で面白かった。だが、実際に自分で発表するのは想像よりもはるかに難しいことだった。聴者とのアイコンタクトは必要不可欠のため、自分が発表する部分の暗記は大前提であった。なおかつ、はっきりと話し、スピードも考えながら発表しなければいけない。これは日本語ですら難しいことなのに、第二言語である英語なので、なおさら痛感した。いくら素晴らしいことを言ったとしても、それが相手に伝わらなければ意味がない。これからのこういった人前で何かを伝える際には、もっと「伝える」ということを楽しみながら取り組んでいきたい。

次に、先生からの講義では、グループ発表の内容からさらに一步踏み込んだ内容について教えて頂いた。自分は特に彗星の軌道が木星に接近すると変わることがあるということに興味を湧いた。木星の強力な重力に引っ張られることが原因らしい。宇宙の神秘に少しでも触れられたような気がして嬉しかった。学内留学で天文学を受講した当初は、天文学はとても難しい学問だと思っていたが、徐々に、案外自分たちに身近なことかもしれないと思うようになった。残り一回の学内留学の講座を大切に、最後までめいっぱい楽しんでいきたい。

E講座 Environmental Science Course (環境学講座) by Mr. Noel Slattery

1年7組3番 I.H

(内容)

1限の半分ほどを発表の練習などに費やした。環境学講座では、生徒を7つのグループに割り振ってそれぞれに会社の名前をつけてあたかも企業でのプレゼンであるかのように発表を行った。この発表が4限まで続き、5限には次回の発表の題についての説明があった。

(感想)

発表は水について3~6人の1グループで一人3分程度の発表をするという課題に基づいて7つすべてのグループがパワーポイントを用いて行ったのだが、講師のノエル先生は僕たちが発表している間メモをとっていて、発表が終わるとさまざまな意見を言ってくれた。それらは時に専門的な内容のものであったり、プレゼンテーションのスライドの作り方であったりと多岐にわたるものであった。そして、そのほとんどが今の自分には足りないものであり、これから自分がプレゼン発表をする上で十分に生かすことのできるようなすばらしい指摘であった。時には非常に厳しい意見も飛び出したりしたが、指摘されたことを次の発表に生かせるよう努力したい。今回の授業では、講評の時間にノエル先生が一枚一枚のスライドを流しながら文字が小さすぎて見えないスライドや、図やイラストをより効果的に用いるための方法など、スライドの問題点とその改善のための方法を詳細に教えてくださったので、前回の学内留学よりも得られるものがとても多かった。自分の英語に関連する技能を伸ばそうと考え参加した学内留学ではあったが、実際参加してみるとオールイングリッシュでの授業であるためリスニングをはじめとする様々な英語技能を伸ばすことができるのはもちろんのこと、英語によるプレゼン発表を通して聞き手に興味を持って聞いてもらうためにはどうすべきかということや、よりわかりやすいプレゼンをするための方法を自らの手で模索するなど、英語に加えてプレゼンの技術をも磨くことのできるとてもよい機会となった。残り一回となった学内留学ではあるが、次回よりよいプレゼンができるよう力を尽くしたい。